

2019年8月31日～2019年9月6日

2019年9月10日

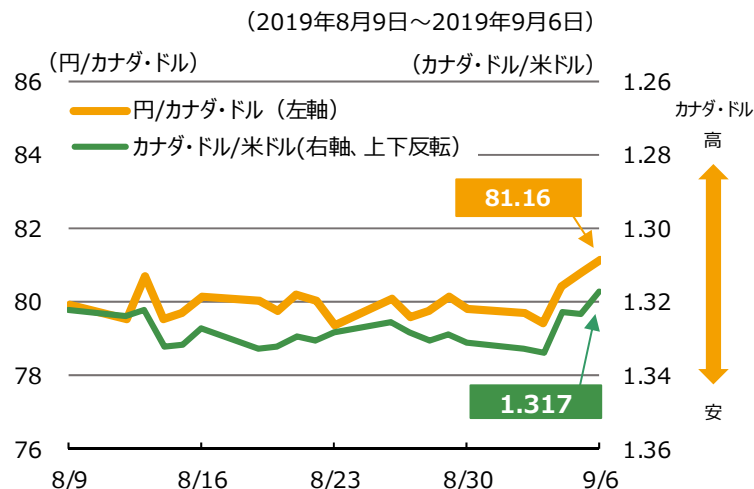
先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りも上昇しました。

カナダ銀行（中央銀行）の金融政策決定会合が開催され、予想通り政策金利は据え置かれました。声明文で現在の金融緩和度合いは引き続き適切との内容があり利下げ期待が後退したことや、米国の経済指標が良好で米国金利が上昇したため、カナダの金利の上昇圧力が強まりました。また、金利や原油価格の上昇などを受けて、カナダ・ドルは対円で上昇しました。

経済指標では、雇用統計が発表になっており、雇用者数は予想を大幅に上回る伸びとなりました。

カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

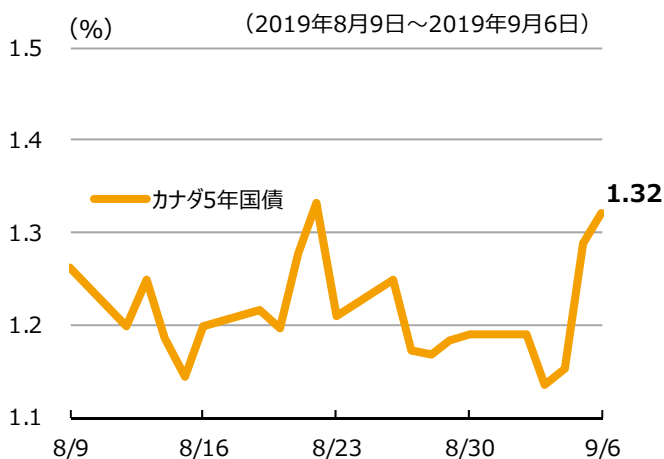
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

今週の見通し

今週、カナダでは複数の住宅関連指標の発表が予定されています。また、米国ではCPI（消費者物価指数）、小売売上高の発表が予定されており、良好な結果になれば米国金利の上昇に連れてカナダの金利の上昇圧力につながる事が考えられます。ECB(欧州中央銀行)の金融政策決定会合の開催も予定されています。

足元では、米中通商協議が10月に開催されることになり貿易戦争懸念が後退したことや英国のEU（欧州連合）離脱延期法案が議会で成立したことなどを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まっています。それを受けて、カナダの通貨、金利が上昇しておりこの流れがどこまで続くか注目されます。

カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。